



でんえい会誌 第 32 号

名古屋工業大学電気系同窓会誌

<https://www.denei.jp/>



＜未来通信研究センター＞

未来通信研究センター長 各務 学

2021 年 1 月に通信分野における産学共創の場として 4 号館 8 階に未来通信研究センターを開設しました。本センターの活動を紹介させていただきます。

設置の社会的背景

あらゆる分野でデジタル化が進展する中、重要インフラの一角を担うモビリティ分野では自動運転やコネクテッド、物流、災害対策等のサービスを、安心してストレスなく提供するための高速で高信頼なネットワーク技術の確立が求められています。この分野では、有線と無線通信を跨ぐ高速で高信頼なシステム技術の導入とその標準化が必須となります。経済安全保障推進法 (2022 年) においても国家の安全保障上重要な通信技術の安定供給を確保するために次世代通信技術の研究開発支援、サプライチェーン強靱化、経済・技術覇権競争への取り組み強化等を求めています。

産学連携型研究への取り組み

本センターではモビリティ内外のネットワーク技術の高度化に対応すべく、企業との共同研究、受託試験等を積極的に進めています。有線 (光・電気)、無線通信技術、高信頼化 (電磁両立性 (EMC)、サービス品質 (QoS)、セキュリティ) 技術、AI 通信データ解析等を専門とする専任教員に加え、企業出身の実務家教員が活動しています。2024 年度からは複雑化する車載エレクトロニクス機器の信頼性を確保するための EMC 基盤技術の共同検討を行う「車載システム EMC コンソーシアム」を開設し、28 社の参画を得ています。今後は分野を広げていく予定です。

経済・技術覇権競争への取り組み

国産技術の競争力を高めるためには、国際標準化への関与を強め、日本の技術をグローバル基準として確立する取り組み強化を行う必要があります。通信インフラのルールを自国主導で決定できれば、技術依存を回避し、安全保障リスクを低減できます。また、国内企業が標準規格を持つことで、経済的利益を確保し、長期的な産業

競争力を維持できます。このような使命をもって、国内の自動車標準化団体 JASPAR と連携して次世代通信規格の策定を主導し、日本の良い技術を広く世界で使ってもらうオープン・クローズ戦略を実践しています。

オープン・クローズ型の教育・研究拠点

以上を踏まえ、本研究センターは電気、情報系の専任教員と、企業で標準化実績を積んだ実務型教員が連携し、テストハウスを運営しています。策定した規格等に適合しているか否かの第三者認証を担当しています。車載通信分野では、米独の大学 (学外ベンチャー含む) が担っていますが、残念ながら日本には存在していませんでした。そこで本学では国内に先駆けてこの任に当たっており、文科省と経産省にはそれぞれ組織づくり、研究開発で支援を頂いております。これらの環境で育った学生を産業界に送り出すことで経済安全保障の当該分野で大きな貢献をすることを目指しています。2021 年度より大学院博士後期課程に「高信頼通信におけるルールメイキング人材育成特別履修コース」を開設しました。社会人のリスキリングにも多く活用いただいています。卒業生の皆様にも是非ともご支援お願いいたします。

＜車載用光通信研究と標準化活動＞

電気・機械工学類、未来通信研究センター

菅野敦史

完全自動運転の実現が現実味を帯びてきました。従来は運転者が歩行者や周囲の車、道路、ガードレール、信号機などを注意深く確認しながら運転していましたが、自動運転ではカメラなどのセンサーが情報を収集し、コンピューターや AI が判断・操作を行います。360 度全方位を絶え間なく監視する必要があるため、多数のセンサーを車両に搭載し、それらの情報を車載コンピューターに送る通信線・ネットワークがいつそう重要になります。

しかし、車載環境はデータセンターや携帯基地局・通信局舎に比べ、振動や環境温度などが非常に厳しいため、一般的に広く使われている通信技術をそのまま適用す

るのは困難です。加えて、大型自家用車では電気ケーブルの重量が 100kg 近くにもなるため、軽量化できれば燃費・電費の向上が期待されます。こうした要件を踏まえ、車載用途に特化しつつ高速なデータ通信が可能な、軽量のガラス製光ファイバーを用いた通信技術に注目が集まっています。

2023 年には、米国 IEEE において車載光ファイバー通信の規格「IEEE 802.3cz」が成立しました。これは日本とスペインが主導して策定された次世代車載ネットワーク向け規格で、最大毎秒 50 ギガビットの高速通信に加え、電気通信より低消費電力であることが特徴です。ただし、まだ標準規格の一部が確立した段階であり、さらなる研究開発が求められています。

名古屋工業大学 未来通信研究センターでは、試作した光通信デバイスの評価や試験を行うための設備を整え、大学独自の研究だけでなく、メーカーや企業との共同研究も進めています。また、研究成果を国際標準化につなぐ活動にも力を入れており、車載ネットワークの標準化団体である OPEN Alliance において、車載光ファイバー通信の国際規格化に取り組んでいます。名工大が提案した項目も規格案に含まれており、将来の自動運転車には欠かせない技術となりつつあります。2024 年度より博士前期課程において未来通信プログラムが複合系プログラムとして立ち上がり、修士学生へ向けた教育も実施中です。さらに、研究・開発と国際標準化をリードできる博士後期課程人材を育成する特別履修コースも未来通信研究センターと共同で開始し、企業からの博士課程入学も増えています。

今後も、産学共創の場としてセンターの体制を一層拡充するとともに、将来の国際標準化に寄与できる学生・人材を輩出してまいります。

＜令和 6 年度「電波の日・情報通信月間」東海総合通信局長表彰を受賞＞

情報工学類 大塚孝信

令和 6 年度「電波の日・情報通信月間」において令和 6 年 6 月 4 日に東海総合通信局長表彰を受賞しました。本表彰は電波利用・情報通信の発展に貢献し、その功績が顕著であった個人・団体に与えられるもので、総務省の委託である SCOPE 事業の成果である、医療機器の位置追跡と稼働状況の可視化を IoT を用いてリアルタイ

ムに把握するデバイスを開発し、病院内の医療機器の最適化を図ることにより、医療従事者の負担軽減及び安全な医療の提供を行うなど、医療における電波利用の普及・発展に多大な貢献が評価され、受賞に至りました。

2024 年度より情報系では医学工学プログラムと未来通信プログラムが創設されました。医学工学プログラムにおいては、名古屋大学医学部との協働プログラムを実施し、情報系の技術を医学応用に活用することを目的としています。現在、医療の高度化に伴い、最先端の工学技術が不可欠な時代となっており、全国各地で医学と工学の連携が、大学レベルや研究者レベルで加速しています。

たとえば、本学と名古屋大学医学部・大学院医学系研究科は、2023 年 4 月に連携協定を締結しています。また、本学の異なる専門領域の多くの研究者が、長年、医学部、医療機関、医療機器メーカーなどと共同研究等を通じて連携をしています。

このような背景から、博士前期課程において新たに医学工学プログラムとして、未来志向の教育研究をスタートさせました。幅広い工学と医学における各分野を横断し、高度な医療技術を支えるための有機的な異分野融合を推進します。特に、医学工学ハブとしての連携推進を行うことで、工学技術に加え、それらの医学応用等への課題を理解し、研究開発における諸課題に貢献できる人材を輩出し、誰もが健康で豊かな未来社会を創出することを目的としています。また、未来通信プログラムにおいては、物理空間とサイバー空間が高度に融合されるソサイエティ 5.0 時代において、その基幹となる通信・ネットワーク・システム技術の高度化が急務となっています。電気電子工学と情報工学の複合領域をカバーする未来通信プログラムでは、自動運転に代表される高度モビリティやロボティクス、スマート工場・農業、遠隔医療などの早期実現をサポートできる実践型研究能力と、その成果普及を行うための高い視座にたったコミュニケーション能力を兼ね備え、複雑な社会要求に対しタイムリーに現実解を提供できる人材育成を行います。分野融合の強みを活かし、プログラム修了生達が将来の通信技術を核とした幅広い応用分野において、中核的な研究者・技術者として活躍してくれる人材育成に取り組むことを目的としています。上記のように、益々情報工学のニーズが増してきており、分野横断研究においても必要とされてきています。

<名工大生活を振り返って>

電気・機械工学類 菊間信良

1988年4月の着任以来37年間の教員として過ごした名古屋工業大学を、この春に定年退職することになりました。1978年4月から1982年3月までの4年間の学生生活（電子工学科学生）を含めると、計41年間の名工大生活となります。以下、Q&A形式で、この間を振り返りたいと思います。

Q1：電磁気学、電磁波工学の分野に足を踏み入れたきっかけは何でしょうか。

A1：私の学生生活は、部活動として合唱団に所属していたためにコーラスの練習ばかりで、私自身、電子工学に強く興味をもつことができないでいました。そうした中で、稲垣直樹先生（当時、助教授）の電磁波工学（3年次）の授業を受けまして、Maxwellの方程式を中心とした数学的に綺麗な理論で電磁波を説明できることに感銘を受けました。このとき「これだ!」と思い、卒業研究には迷わず稲垣研究室を希望しました。これが電磁気学・電磁波工学の世界に入ったきっかけです。もうひとつ上げるとすると、4年生のときに大学院入試のために苦手な電磁気学をもう一度勉強し直した時間が電磁気学の面白さを教えてくれました。

Q2：どういう経緯で名工大に着任することになったのでしょうか。

A2：大学院は修士課程と博士課程と、京都大学で過ごし、D3のときに稲垣先生から「名工大に来ませんか?」とお誘いを受けました。当時、就職活動をしておりまして、一般企業の見学をしていたのですが、稲垣先生からのお誘いで、一気に大学教員としての未来像が私の中に芽生えました。そして、D3修了後の1年後に無事に着任いたしました。

Q3：思い出に残る研究は何でしょうか。

A3：一つには、複数のアンテナで受信した信号に対して適応的に重みづけを行うことによりアレーアンテナの指向性を自在に制御できるアダプティブアレーの研究で、移動通信分野へ応用する多くのアルゴリズムを考案しました。ブラインド処理が可能な拘束付き電力最小化法や、最小二乗誤差法に基づく制御方法は、移動通信における基地局制御、端末制御技術の基盤となっております。

次に、アレーアンテナを利用した電波到来方向推定技術、電波源位置推定技術にも取り組んできました。従来

の高分解能推定手法をさらに発展、拡張して移動伝搬環境（多重波環境）に応用する技術は、移動通信における電波伝搬解析ならびに各種レーダなどに応用されています。

更に、送信と受信の双方にアレーアンテナを用いることにより空間的に通信を多重化するMIMO伝送技術が近年注目されていますが、その制御アルゴリズムの基本となるブロック対角化法を更に改良し、複数の端末局とMIMO通信を行うマルチユーザMIMOにおける効率的な伝送方法へと発展させました。

Q4：名工大の運営面での思い出はありますか。

A4：平成15年度に新設された情報工学専攻の最初の専攻長に任命され、専攻運営規則の策定など暗中模索で専攻運営を行っていたのが思い出されます。また、平成18年度からの2年間、新設された電気電子工学科の3年目、4年目の教育類長として、新学科完成に向けて力を注いだことが良い思い出となります。このときは、教育の質向上のために日本技術者認定機構（JABEE）対応にも当たり、その成果は、現在の電気・機械工学科電気電子分野の教育方針のガイドラインになっていると思っております。

以上のように充実した教員生活を送れたのは、多くの方々のご理解・ご支援のお蔭です。また、当研究室の学生諸君は、研究生活を楽しく有意義なものしてくれました。特に最後の年度のM2の学生諸君には研究室の後片付けを手伝っていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

末筆になりましたが、名古屋工業大学ならびに電影会のさらなる発展、皆様のご多幸と益々のご活躍を祈念いたします。

<これまでの名工大生活を振り返って>

電気・機械工学類 曾我哲夫(E57)

昭和53年4月に名古屋工業大学電気工学科に入学して以来47年間ほとんど御器所で過ごしてきましたが、令和7年3月末で定年退職することになりました。その間、学部が4年、修士課程が2年、博士課程（名古屋大学）が3年、教員となつてからは、電気情報工学科助手が約5年、計測分析センター助教授が約5年、都市循環システム工学専攻（独立専攻）助教授と教授が11年、未来材料創成工学専攻（独立専攻）教授が8年、電気・機械工学専攻教授が9年と、所属や立場はその時代に応じて色々と変わってきました。

これまでの人生を振り返ってみると、名工大に入学したのは転機でしたが、この47年間で大きな転機は研究室選びだったように思います。当時の電気工学科も現在の電気電子分野と同じ様に、モーターや電力（強電）関係、通信関係、物性関係の3つの分野がありました。その中で、私は物性関係の研究室の中でデバイスまで研究を行っている梅野研究室を希望しました。研究テーマを決める時、梅野教授から「大学院に進学するなら結晶成長から始めた方が良い」と言われ、MOCVD（有機金属気相成長）法によるGaAs結晶成長の研究が卒論テーマとなりました。今から思うと、当時使っていたMOCVD装置は大変危険な装置だったように思います。その後、Si上へのGaAs結晶成長の研究、Si上GaAsを用いたタンデム太陽電池の研究へと発展していきました。当時としてはかなり高効率の太陽電池を学会発表できました。その後、As等の有毒物質を使わないカーボン薄膜やナノカーボン薄膜の作製と太陽電池応用の研究で大型の外部資金を獲得し、研究を開始しました。研究室が1号館から11号館に移転した時にMOCVD装置の移設を大学に申請したのですが、予算が降りず、MOCVD関係の研究は断念せざるを得なくなりました。その後、大掛かりな装置が無くて研究を続けられる色素増感太陽電池、有機薄膜太陽電池、ペロブスカイト太陽電池の研究を行ってきました。余り良い研究成果は得られませんでした、なんとか教員生活を続けることができ、色々と手助け頂いた近くの先生方、実験を行ってくれた学生さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

研究以外では、大型設備基盤センター長を3年、マレーシア事務所長を8年担当しました。大型設備基盤センター長としては、文部科学省の「先端研究施設共用促進事業」を実施し、本学に初めて「共用促進」という概念を浸透させ、研究設備の整備を行いました。マレーシア事務所長としては、マラ工科大学での海外事務所の設立や国際会議の共同開催等を行いました。しかし、どれも道半ばです。

電影会では会長以外の役職は大体担当しました。その中で私が担当した思い出は、名簿の発行、「でんえい会誌」第1号の発行、電影会ロゴマークコンテストです。昨今は業務が多い割には電影会出身者の教員が少なく、役員になった方の業務が増えて大変だと感じます。

以上、名工大での47年を振り返って思いつくままを書きましたが、これまで色々な方々に支えられてやってこれたことを改めて感じました。この場を借りて皆様

に感謝申し上げたいと思います。また、これからの名工大、及び電影会の益々の発展を祈念いたします。

＜名古屋工業大学の退職に向けて＞

電気・機械工学類 竹下隆晴

学部、修士課程の学生として6年間、教員として34年間、それぞれお世話になった名古屋工業大学を退職することになりました。

卒業研究の指導教員の常広譲先生から大学院進学を勧められ、修士課程では松井信行先生にご指導いただきました。学生時代の研究ではパワーエレクトロニクス分野のモータ駆動用インバータ（DC-ACコンバータ）制御を行い、おもしろいと感じました。就職を考えていたパワーエレクトロニクス関係の企業に見学に行き、少し違うなと思っていた時に、松井先生から岐阜工業高等専門学校の助手を勧められ、教員になりました。

1991年に名古屋工業大学の講師として採用され、松井先生とともにモータ駆動用インバータ制御、インバータ電源を構成するPWM整流回路（AC-DCコンバータ）制御、さらにはその電力供給源となる電力配電システムの制御と、パワーエレクトロニクス分野の研究範囲を広げていきました。

2003年頃より新たな研究の展開として、商用交流電圧を、直接、電圧と周波数の異なる交流に変換する小型・高効率なマトリックスコンバータ（AC-ACコンバータ）の研究や高電圧・大電力の電力変換器へと研究を展開していきました。このころより、修士学生と一緒に海外で開催される国際会議でも論文発表をし、海外の研究者とも交流するようになりました。最近10年は、カーボンニュートラルに向けて、電気自動車用の充電器（DC-DCコンバータ）やワイヤレス電力伝送などの研究も進めています。

学部生のときに同期生であった静岡大学の野口敏彦先生からベンチャー企業設立のお誘いがあり、2018年には、名古屋工業大学発ベンチャー企業を設立しました。ベンチャー企業では、大学における教育や研究成果の事業化を目指し、社会へ貢献するとともに、大学における学生の教育や研究にも企業経験を還元しています。退職後は、ベンチャー企業の活動を中心に行っていきます。

今年3月1日には最終講義を行い、キャリア形成をテーマの1つに置いています。目標に向かってキャリアを積み上げる従来の考え方ではなく、ジョン・D・ランボルツ教授による「計画的偶発性理論（Planned



竹下隆晴教授の最終講義の様子

Happenstance Theory)」に提唱されているように、キャリア形成において予期せぬ偶発性の出来事や出会いをチャンスと捉えることが重要という考えで、自分自身のキャリアを振り返りました。私自身が修士課程へ進学し、教員になったこと、さらにはベンチャー企業を立ち上げたことなど、偶発性の出来事と人との出会いがキャリア形成に大きな影響を与えています。これからキャリアを積み上げていく皆さんも一度自分のキャリア形成を考えてみてはいかがでしょうか。

長年にわたりパワーエレクトロニクスの研究に携わり社会貢献できたことは、名古屋工業大学および研究室の学生の皆様をはじめとする多くの方々のご理解・ご支援のお蔭です。

末筆になりましたが、名古屋工業大学ならびに電影会のさらなる発展、皆様のご多幸とご活躍を祈念致します。

＜電影会への期待＞

情報工学類 内匠逸

昨年の夏休み以降、研究室じまいに大変多くの時間をかけました。前の教授から引き継いだ分も含めて400冊ほどの図書を返却することから始め、自分の居室の資料を確認し廃棄しました。その後、実験室・実験装置の整理に取り掛かりましたが、思いもしないものが多く見つかりました。その一つが、かつては送信局のファイナルとして使われたかと思わせる大きな真空管と40年以上前に購入された安定化電源装置です。既に定年退職された技官の方が丁寧に使用されてきたもので、教授3代に渡り引き継がれたことになります。更に、その1代目の教授、石川太郎先生が定年退官時に纏められた「御器所が丘の電影会物語」も見つかりました。

私は、二期校としての名古屋工業大学、最後の新入生でした。同級生の多くは入試制度の変更を目前にやむなく浪人より入学を選択していました。名工大には、当時



2025年3月4日に開催された電気電子・情報工学分野合同送別会の写真（退職された先生は左から足立先生、菊間先生、曾我先生、内匠先生、竹下先生）

では珍しく1年前期から専門科目があり、「電子管工学」は石川太郎先生のご担当でした。その講義中、「名工大は実力と就職において近くの総合大学より優っている、また多くの卒業生が他の大学院に進学している」と鼓舞されました。「御器所が丘の電影会物語」は、名工大愛に満ち溢れており、特に電影会には我が子同然に全力を注いでこられたことが伺えます。

ゆとり教育の頃からか、学生の帰属意識が急激に薄れてきたと感じます。教員の多忙が原因かも知れませんが、学生の帰属意識の低下は、長期的にその大学を衰退させると考えています。そのために、電影会には名工大愛を育む活動を期待しています。電影会が発足したのは、昭和4年で、昭和14年には、10周年のお祝いをしたそうです。ということは、あと数年後に100周年を迎えることになりますが、電影会飛躍のきっかけになることを願っています。

＜2024年度の就職状況について＞

電気電子系就職担当 森田 良文

2025年3月卒業予定の学生を対象に就職担当として指導などを行いました。約14年前に一度就職担当を務め、今回は二度目の担当となります。前回と比べて就職状況が大きく変化しており、戸惑うことも多々ありました。

まず、変わっていない点について述べます。今年も多くの企業さん(約430社)から求人をいただきました。学部生約100名のうち約8割が大学院に進学し、大学院博士前期課程修了者約100名のうち97%以上が就職しました。(なお、創造工学教育課程の学生のうち、電気電子分野の教員が指導している学生もこの中に含まれてい

ます。) このように、名工大生が非常に多くの企業さんから高く評価され、求められていることを改めて実感しました。

一方、以前と大きく変わった点は採用活動の時期や方法です。厚生労働省が示している現在のルールは「広報活動は3月から、選考は6月から」とされていますが、実際にはそれ以前から採用活動が始まっています。今回は特に先行して行われる採用活動の数が増え、開始時期もさらに早まりました。(本来のスタートの時期である3月1日時点には、すでに約5割の学生が内々定というゴールに達していました。) さらに、それ以前の夏、秋、冬に実施されるインターンシップが採用活動のきっかけとなるケースも多く見られました。

2022年度までは新型コロナウイルス感染防止のため、対面での採用就職活動が制限されていました。しかし、2023年度はその感染がほぼ終息し対面での活動が行いやすくなったことから、採用活動の前倒が顕著になりました。そこで、2024年度は学生への進路指導の時期を例年の1月から11月に前倒しました。

電影会で実施していただいている懇親会は、学生にとって貴重な情報収集の場となっております。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

＜2024年度の就職状況について＞

情報系就職担当 櫻井 祐子

2025年3月卒業の情報系の学生の就職担当を務めました。次に述べるように、情報系の進路指導対象学生は多いため、森山 甲一准教授、成田 由花事務補佐員の3名のチーム体制で進路指導を行いました。情報系の進路指導対象学生は、第一部の高度工学教育課程情報工学科の学部生(3年生以上)、第二部電気情報工学科の学部生(4年生以上)で配属研究室の指導教員が情報工学科所属の学生、大学院工学専攻情報工学系プログラムの学生(修士1年生以上)、および創造工学教育課程で情報を主軸とする学生(修士1年相当以上)です。一部学部生140名(うち就職19名)、二部学部生4名(うち就職2名)、大学院生(前期)は139名(うち就職130名)と昨年とほぼ同程度の人数でした。情報系の学生に対して頂いた求人企業数は昨年より微減し、319社でしたが、大学推薦応募が可能な企業数は283社と昨年より45社増えました。大学推薦については、昨年度と同様にジョ

ブマッチング方式が主流となりました。多くの業界でChatGPTをはじめとした生成AIの急速な普及やDX推進の動きが一層強まっており、プログラミングやデータサイエンス、機械学習などの情報工学に関する専門的なスキルを持つ学生に対する企業の期待とニーズはこれまで以上に高まっていることを実感しました。

企業との面談は、採用活動時期の早まりを受け、例年よりも早く、2023年10月から開始しました。昨年度は対面での面談は半数程度でしたが、今年度は7割強と増加し、多くの採用担当者と対面でお話することができました。採用担当者が本学の卒業生の場合もあり、採用に関する話だけでなく、学生時代の懐かしい話をお伺いすることもありました。

学生への指導も例年よりも早く開始しました。2023年11月に就職活動全般に関するガイダンス、2024年1月に大学推薦に関するガイダンスをそれぞれ実施しました。2024年2、3月には学生との個別面談を行いました。ガイダンスと個別面談を全て対面で実施したのはコロナ禍以降初めてでしたが、ガイダンスの出席率が我々の期待よりも低かったため、学生への周知については今後の課題です。また、本学主催の冬期(12月)業界研究セミナー、春季(3月)・夏季(9月)企業研究セミナーや、全学キャリアサポートオフィスの情報なども学生にとって有用ですので、積極的に利用を呼びかけました。

今年の進路指導を振り返りますと、学生の就職活動開始時期が我々の想定以上に早かったことと、採用プロセスの複雑化が挙げられます。数多くの企業で、我々の進路指導開始以前にインターンシップが行われていました。インターンシップは、学生にとって企業の雰囲気や仕事内容を具体的に知ることができる良い機会である一方、インターンシップ参加者を対象にした早期選考が行われるなど、採用活動の一環となっていた場合もありました。インターンシップやジョブマッチング形式の増加など、採用活動の変化を考慮した進路指導の必要性を痛感しました。

末筆となりますが、ご支援を賜りました本学卒業生の方々をはじめとする皆さまに厚く御礼を申し上げます。今後とも変わらぬご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

2024 年度事業報告

1. 会合

- 電影会総会 2024. 5.24 名工大 1 号館 0112 室
- 第 1 回役員会 2024.10.18 名工大大学会館 1 階大食堂
- 学内幹事会 2024.12.18 名工大 6 号館 1 階ゼミ室
- 第 2 回役員会 2025. 2.27 名工大大学会館 1 階大食堂
- 幹事会 2025. 3.27 名工大大学会館 1 階大食堂

2. 事業

- 学生向け講演会
2025.2.3: 橋本英樹 氏(ごきそ技術士会),
鈴木克彦 氏(J57)(ごきそ技術士会)
- 新入生向け電影会案内:一部・二部学生、編転入生
に対して実施
- 卒業祝賀会
- 電影会会誌発行(第 32 号)2025.4
- 大学行事補助 2 件
- 電影会賞贈呈 2025.3.26
- 卒業生と学生の懇談会 2024.12.13

2024 年度決算

科 目	収 入(円)	科 目	支 出(円)
繰 越 金	3,807,613	通 信 費	681,741
入 会 金	1,695,000	印 刷 費	891,570
工業会より	50,000	事 務 費	0
利 息	182	会 合 費	176,551
雑 収 入	150,000	学生行事補助	331,365
寄 付 金	930,298	大学行事補助	40,000
		総 会 補 助	109,535
		支 部 活 動 費	100,000
		インターネット経費	10,912
		雑 費	422
		人 件 費	300,000
		繰 越 金	3,990,997
合 計	6,633,093	合 計	6,633,093

2025 年度事業計画 (案)

1. 会合

- 電影会総会 ○役員会
- 幹事会 ○学内幹事会

2. 事業

- 新入生向け電影会案内 ○学生向け講演会
- 電影会会誌発行 ○卒業祝賀会 ○電影会賞
- 大学行事への補助 ○卒業生と学生との懇談会
- 名古屋工業会との連携

2025 年度予算 (案)

科 目	収 入(円)	科 目	支 出(円)
繰 越 金	3,990,997	通 信 費	750,000
入 会 金	1,190,000	印 刷 費	900,000
工業会より	50,000	事 務 費	1,000
利 息	182	会 合 費	140,000
雑 収 入	0	学生行事補助	320,000
寄 付 金	1,100,000	大学行事補助	60,000
		総 会 補 助	110,000
		支 部 活 動 費	150,000
		インターネット経費	10,000
		雑 費	10,000
		人 件 費	320,000
		繰 越 金	3,560,179
合 計	6,331,179	合 計	6,331,179

2025 年度役員 (案)

名 誉 会 長	犬飼英吉 (E28)
	中村光一 (E41)
	北村正 (Es48)
顧 問	川村信之 (E53) 石橋豊 (J56)
会 長	山中清 (J52)
副 会 長	川越英二 (E47) 原田幹寿 (E53)
	藤社彰 (J52) 加藤昇平 (EJh5)
理 事	岩塚真之 (E56) 犬塚信博 (J62)
	城ノ口秀樹 (E55)
監 事	市原正樹 (E48)
庶 務 理 事	廣瀬光利 (E50) 松井俊浩 (EJh7)
会 計 理 事	平田達也 (J62) 安部功二 (EJh15)
編 集 理 事	矢野佑典 (2010) 菊地真人 (2016)
庶 務 補 佐	関 健太 (EJh12)
会 計 補 佐	島孔介 (CSH26)

学位取得者一覧

電気・機械工学専攻 (2024 年 9 月・2025 年 3 月 課程博士)

氏 名	論 文 題 目	授与年月	主査教員名
野村 正和	把握力調整能力 に着目したヘルスケアシステムと機能的自立度評価 スコアの予測に関する研究	2024 年 9 月	森田 良文

CHOKCHAI Chatchai	A Study on Broadband Transitions of Waveguide and Planar-Line in Multi-layer Substrate at Sub-Terahertz Band	2024 年 9 月	榊原 久二男
Islam Md Arif UL	Study of single and multijunction bismuth-based perovskite photovoltaic cells: Synthesis, characterization, simulation, and performance	2025 年 3 月	曾我 哲夫
Khadka Dev Bahdur	Study on Fabrication and Characterization of Bismuth-based Thin Films for Solar Cells by Spin Coating Method	2025 年 3 月	曾我 哲夫
Rahman Md Matiur	Study on bioi-based photoelectrochemical and solid-state photovoltaic cells	2025 年 3 月	曾我 哲夫
朱 儒成	Study on Graphene Nanowall Using Microwave Plasma CVD for Solid-State Li-Ion Battery	2025 年 3 月	曾我 哲夫
片岡 研人	UWB 無線システムのマルチパス環境における電波の伝搬時間及び到来方向推定に関する研究	2025 年 3 月	菊間 信良
戸澤 幸大	静電気放電耐性試験装置の接触放電校正波形に対する特性測定と影響要因	2025 年 3 月 (早期終了)	王 建青

情報工学専攻 (2025 年 3 月 課程博士)

氏 名	論 文 題 目		主査教員名
TALEB Ennouhe	Study on Quality of Service Improvement for Wired and Wireless Home Networks	2025 年 3 月	片山 喜章 (指導教員: 伊藤 嘉浩)
古賀 諒一	A Study of Pathological Image Analysis for Development of Accurate and Explainable Computer-Aided Diagnosis Systems	2025 年 3 月	横田 達也 (指導教員: 本谷 秀聖)

入試・就職状況

2025 年度入学選抜状況(カッコ内は昨年の数値)

電気・機械工学科

	推薦	前期日程	後期日程
募集人員	15 (15)	105 (105)	65 (65)
志願者数	39 (51)	340 (356)	690 (549)
受験者数	39 (35)	328 (340)	329 (253)
合格者数	16 (18)	108 (106)	83 (91)

情報工学科

	推薦	前期日程	後期日程
募集人員	5 (5)	85 (85)	45 (45)
志願者数	20 (30)	349 (241)	375 (377)
受験者数	20 (30)	331 (230)	174 (229)
合格者数	5 (7)	88 (89)	54 (54)

私費外国人留学生特別選抜

	電気・機械工学科	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数	11 (21)	28 (15)
受験者数	8 (18)	25 (14)
合格者数	2 (4)	5 (4)

編入学・転入学 (3 年)

[] は内数で転入学数を表す

	電気・機械工学科 (電気電子分野)	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数	23 [3] (14 [1])	19 [1] (19 [2])
受験者数	21 [3] (12 [1])	16 [1] (18 [2])
合格者数	8 [0] (5 [1])	5 [1] (6 [1])

電気・機械工学コース(夜間主)

	推薦	総合型選抜
募集人員	8 (8)	2 (2)
志願者数	5 (8)	4 (5)
受験者数	5 (8)	4 (5)
合格者数	5 (8)	2 (2)

大学院・電気電子プログラム(博士前期)

	推薦	一般選抜	私費留学生
募集人員	54 ※ (54 ※)	96 ※ (96 ※)	若干名
志願者数	24 (58 ※)	66 (155 ※)	6 (19)
受験者数	23 (58 ※)	66 (153 ※)	6 (17)
合格者数	22 (56 ※)	57 (117 ※)	2 (1)

※数値は機械工学プログラムを含む

大学院・情報工学系プログラム(博士前期)

	推薦	一般選抜	私費留学生
募集人員	31 (31)	101 (71)	若干名
志願者数	29 (31)	117 (119)	14 (17)
受験者数	29 (31)	111 (117)	14 (16)
合格者数	29 (31)	101 (88)	7 (8)

大学院・電気・機械工学プログラム(博士後期1次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
9 (9)	6 (3)	6 (3)	6 (3)

大学院・情報工学系プログラム(博士後期1次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
7 (7)	8 (5)	8 (5)	8 (5)

大学院・国際連携情報学専攻(博士後期)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

大学院・国際連携エネルギー変換システム専攻(博士後期)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
4(4)	0(1)	0(1)	0(1)

大学院・電気・機械工学系プログラム(博士後期2次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干名	10(7)	10(7)	10(7)

大学院・情報工学系プログラム(博士後期2次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干名	3(1)	3(1)	3(1)

2024年度卒業生就職状況

	電気電子分野			情報工学科		
	大学院	一部	二部	大学院	一部	二部
卒業生	105	102	2	139	140	4
進学者	1	88	0	5	119	1
研究生	0	0	0	0	0	0
一般企業	100	14	2	130	19	2
公務員	0	0	0	2	2	0
教員	0	0	0	0	0	0
帰国(留学生)	3	0	0	2	0	0
休学他	1	1	1	4	2	0
未定者	1	0	0	0	0	1

電影会賞

この賞は、電影会準会員の向学心向上と優秀な学生の育成を目的とし、卓越した成績で卒業し、今後の科学技術の発展に貢献すると思われる有望な学生を表彰することを目的としています。2024年度の受賞者は以下の方です。

氏名, 所属
岩井 さくら, 第一部電気・機械工学科
亀山 杏佳, 第一部電気・機械工学科
鹿野 航希, 第一部電気・機械工学科
松本 結斗, 第一部電気・機械工学科
宮田 莞杏, 第一部電気・機械工学科
山下 凌太朗, 第一部電気・機械工学科
AMGALAN Namuun, 第一部電気・機械工学科
山下 一樹, 第二部電気情報工学科

氏名, 所属
伊藤 由騎, 第一部情報工学科
鈴木 颯真, 第一部情報工学科
近藤 楓真, 第一部情報工学科
加藤 拓弥, 第一部情報工学科
藤岡 拓夢, 第一部情報工学科
高橋 聖弥, 第一部情報工学科
松本 陸人, 第一部情報工学科

学生の表彰

紙面の都合上、受賞内容の詳細は省略させていただきます。

賞の名称, 氏名, 所属, 指導教員氏名
IEEE PELS Japan Young Engineer Award(2025.3), 宮崎理人, 創造工学プログラム, 青木睦准教授
電気設備学会全国大会 優秀発表賞, 服部証宏, 電気電子プログラム, 安井晋示教授
電気設備学会学生研究発表会 優秀賞, 丹羽祐太, 電気電子プログラム, 安井晋示教授
電気設備学会学生研究発表会 優秀賞, 今井翔麻, 電気電子プログラム, 安井晋示教授
電気学会優秀論文賞 B 賞 (2025.1), 渡邊湧也, 電気・機械工学系プログラム, 関健太准教授
電気学会産業計測制御技術委員会優秀論文発表賞 (2025.1), 長縄翔太, 電気・機械工学系プログラム, 関健太准教授
計測自動制御学会優秀学生賞 (2025.3), 斉藤憲佑, 電気・機械工学科, 森田良文教授
電気学会 優秀論文発表賞 A (2024.2), 水溜和也, 電気・機械工学系プログラム, 前田佳弘准教授
電気学会 優秀論文発表賞 A (2025.2), 佐藤慎平, 電気・機械工学系プログラム, 前田佳弘准教授
電子情報通信学会 EMCJ 専門技術委員会主催 第5回 EMC 設計対策コンテスト KEC 特別賞 (2024.12), 鳥居直輝, 電気・機械工学科電気電子分野, 王建青教授,
電子情報通信学会 EMCJ 専門技術委員会主催 第5回 EMC 設計対策コンテスト KEC 特別賞 (2024.12), 玉井誠人, 電気・機械工学科電気電子分野, 矢野佑典助教
電子情報通信学会無線通信システム研究会 初年度発表者コンペティション最優秀発表賞 (2025.01), 加藤翼, 電気電子系プログラム, 岡本英二教授
電子情報通信学会コミュニケーションシステム研究会 学生セッション優秀発表賞 (2024.07), 寺田龍人, 電気・機械工学系プログラム, 岡本英二教授
電子情報通信学会コミュニケーションシステム研究会 学生セッション優秀発表賞 (2024.07), 神谷拓光, 電気電子系プログラム, 岡本英二教授
電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞 (2024.06), 山浦健介, 創造工学プログラム, 岡本英二教授
電子情報通信学会通信ソサイエティ Best Paper Award (2024.05), 富田健哉, 電気・機械工学系プログラム, 岡本英二教授
電子情報通信学会無線通信システム研究会 奨励賞 (2024.05), 烏帽子田拓海, 電気・機械工学系プログラム, 岡本英二教授

電子情報通信学会無線通信システム研究会 奨励賞 (2024.05), 戸澤 遼, 電気・機械工学系プログラム, 岡本英二教授
iWAT2024 Student Paper Award (2024.4), 山崎敦也, 電気・機械工学系プログラム, 榊原久二男教授
電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞 (2024.6), 岩本彩月, 電気・機械工学系プログラム, 榊原久二男教授
電子情報通信学会アンテナ・伝播研究会 優秀ポスター発表賞(2024.10), 杉山秀明, 電気・機械工学系プログラム, 榊原久二男教授
2024 International Symposium on Antennas and Propagation Best Student Paper Awards Second Prize (2024.11), 高田翔太, 電気電子プログラム, 榊原久二男教授
IGROW2025 Best Poster Award (2025.2), 植村太亮, 電気電子プログラム, 榊原久二男教授
電子情報通信学会 2024 年度学術奨励賞 C エレクトロニクス, 盛山隆聖, 電気・機械工学系プログラム, 平田晃正教授
JPHACKS 2023 Best Audience Award, JPHACKS 2023 Best Finalist Award, JPHACKS 2023 Innovator 認定及び企業賞 (2024.5), 青原光, メディア情報プログラム, 徳田恵一教授, 南角吉彦准教授, 橋本佳准教授
JPHACKS 2023 Best Audience Award, JPHACKS 2023 Best Finalist Award, JPHACKS 2023 Innovator 認定及び企業賞 (2024.5), 伊藤朝陽, ネットワークプログラム, 和田山正教授
JPHACKS 2023 Best Audience Award, JPHACKS 2023 Best Finalist Award, JPHACKS 2023 Innovator 認定及び企業賞 (2024.5), 目瀬道瑛, 情報工学科, 酒向慎司准教授
ギネス世界記録™「最小のヒューマノイドロボット smallest humanoid robot」(2024.6), 三矢達彦, 知能情報プログラム, 加藤昇平教授
第 19 回情報危機管理コンテスト 経済産業大臣賞 (2024.8), 神谷直輝, 情報工学系プログラム, 齋藤彰一教授, 掛井将平助教
第 19 回情報危機管理コンテスト 経済産業大臣賞 (2024.8), 山根一真, ネットワークプログラム, 齋藤彰一教授, 掛井将平助教
第 19 回情報危機管理コンテスト 経済産業大臣賞 (2024.8), 梅田, 情報工学科, 齋藤彰一教授, 掛井将平助教
第 19 回情報危機管理コンテスト 経済産業大臣賞 (2024.8), 山下一樹, 第二部電気情報工学科, 齋藤彰一教授, 掛井将平助教
情報処理学会音楽情報科学研究会第 141 回音楽情報科学研究会ベストプレゼンテーション賞 Best New Direction 部門 (2024.9), 川地奎多, 情報工学系プログラム, 酒向慎司准教授
IEEE Future Networks World Forum 2024 Best Paper Award (2024.12), 山田歩人, 情報工学系プログラム, 川島龍太准教授
第 148 回 数理モデル化と問題解決 (MPS) 研究会 ベストプレゼンテーション賞 (2024.6), 竹味和輝, 情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
The 8th IEEE International Conference on Agents Student Award (2024.12), 鈴木崇弘, 情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
The 8th IEEE International Conference on Agents Student Travel Award (2024.12), 竹味和輝, 情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
第 22 回情報学ワークショップ 最優秀賞 (2024.12), 白井真歩, 情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
第 22 回情報学ワークショップ 優秀賞 (2024.12), 早川諒, 情報工学科, 加藤昇平教授
第 22 回情報学ワークショップ 奨励賞 (2024.12), 草野雅也, 情報工学科, 加藤昇平教授
令和六年度 電気・電子・情報関係学会 東海支部連合大会 奨励賞 (2025.1), 鈴木翔大, 創造工学教育課程, 加藤昇平教授
名古屋工業大学学長表彰 課外活動・特別功労部門 (2025.2), 三矢達彦, 知能情報プログラム, 加藤昇平教授
名古屋工業大学学長表彰 課外活動・特別功労部門 (2025.2), 竹味和輝, 情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
名古屋工業大学副学長表彰 学生研究部門 (2025.2), 竹味和輝, 情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
名古屋工業大学副学長表彰 学生研究部門 (2025.2), 鈴木崇弘, 情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
名古屋工業大学副学長表彰 学生研究部門 (2025.2), Xiaoxue Liu, 国際連携情報学専攻, 加藤昇平教授
第 87 回情報処理学会全国大会 学生奨励賞 (2025.3), 鈴木翔大, 創造工学教育課程, 加藤昇平教授
IEEE 名古屋支部 優秀学生賞 (2025.3), 平山義樹, 知能情報プログラム, 加藤昇平教授
IEEE 名古屋支部 優秀学生賞 (2025.3), Minggang Wang, 国際連携情報学専攻, 加藤昇平教授

学 科 近 況

◎ 学科役職(新年度の電影会関連教職員のみ)

2025 年度電気・機械工学類・系プログラム

副類長/プログラム長 ニラウラ マダン 教授

2025 年度情報工学類・系プログラム

類長/プログラム長 李 晃伸 教授

副類長/副プログラム長 和田山 正 教授

玉木 徹 教授

櫻井 祐子 教授

2025 年度電気情報工学(二部)教育類長 王 建青 教授

2025 年度就職担当

電気・機械工学類 加藤 正史 教授

情報工学類 犬塚 信博 教授

黒柳 奨 准教授

◎ 2024 年度退職教職員

電気・機械工学類

菊間 信良 教授

曾我 哲夫 教授

竹下 隆晴 教授

安在 大祐 准教授

平山 裕 准教授

内匠 逸 教授

足立 俊明 教授

情報工学類

情報数理分野

◎ 2024 年度新任教職員

電気・機械工学類

南條 拓真 准教授

情報工学類

丁 寧 助教

電影会運営資金寄付者

以下の方々より寄付をいただきました。ご高配に厚く御礼申し上げます。なお、学科の略語の記載を省略し、卒業年のみ記載させて頂きましたので予めご了承ください。2024年2月末までの寄付分を掲載しております。

昭16	杉山貞夫	昭58	足立利浩	富田広和
昭23	牧野和正	昭59	酒井泰誠	葛西克郎
昭25	泉館昭則	昭60	松田裕昭	新川武
昭26	原行一	波多野寅英	昭61	熊崎昭 中川朝臣 高石一慶
昭28	山田速水	伊藤潤	昭62	犬塚信博 平田達也 安井晋示 久野光央
昭30	青木茂	不破幸雄	昭63	鎌田和弘 夏原啓一 竹腰健史 小林直樹
昭31	大嶋光朗	辻村尚明 中曾透		猪島政之
昭32	久保仁 藤井栄麿 澤田正美 水谷安郎		平元	谷口一哉 林宏明 三浦篤志 平松孝章
昭33	竹内儀行 藤田正浩 熊谷直孝 寺社下政美		平2	荒川英夫
昭34	幅敏明 山田正明		平4	青木睦 野村尚史
昭35	岡田昌孝 岡野達夫 金子勝藏 後藤秋生		平6	斉藤洋一
	中西和義 三浦允之 梅野正義 大谷健嗣		平7	松井俊浩 荒川広明
昭36	増田勝一 馬路才智 津久井勤 西村秀夫		平9	木田雄次
	若山計夫 駒田忠之 定本建二 黒田和助		平10	佐藤宣夫
	小田征一郎		平12	森下さと子 竹尾淳
昭37	野田昭 高橋宏一		平15	川原淳平 安部功二
昭38	田口守彦 高島裕之 是木修一 八代弘		平16	加藤政幸
	中谷光男 宮原雅彦		平18	上山博也
昭39	下前哲夫 岡田守弘 石谷彰康 矢田公一		平20	都築賢二 田中慎一郎 田中伸太郎 佐藤秀紀
	水澤健一		平21	本種和弘
昭40	大西旻 久保原誠司 小澤容		平23	伊藤公一
昭41	宇野啓一 中村光一 岩波好夫 神本勝己		平26	荒木千佳
	世古剛 山口博司 前越久 則竹良藏		平28	長尾英剛
昭42	吉村洋典 伊藤洋太郎 宇佐美忠男 小島一男		平30	山中勇弥
	中山静夫 青木猛 川島征一郎		平31	小林竜大
昭43	堀尾猛 森本晃一		令2	岩田康平 西谷萌
昭44	松岡幸生 片桐清志 長見晃 佐藤恒夫 木原清		令3	片田創 市川元也
	川瀬正毅 渡邊興司 棚橋英俊 菅野宗二		令5	今村仁 角田幸揮 松本善樹 佐藤寿弥
	柴田俊夫			
昭45	荻野隆彦 浅井正之 石割三千雄 松崎敦志			
	桶昭一 久保轉			
昭46	津田孝明			
昭47	川越英二 串崎一正 加藤元三郎 卯野秀忠			
	金澤秀喜 星野幸吉 川橋憲			
昭48	米山高志 中島正敏 市原正樹 北村正 蓮田史則			
昭49	緒方善郎 谷澤好晴 藤井義磨郎 赤木泰文			
	横地正孝 今村和美 西村政信 宮崎直己			
	須藤敏雄 藤澤篤史 田村安治 50周年の同期一同			
昭50	浅井良一 眞鍋和人 廣瀬光利 荻原義也			
昭51	太田仁啓 村端晋一 恩地秀男 吉村元			
昭52	岡本政美 高石由紀夫 山口好孝 藤社彰			
	宮脇誠 内海和彦 山中清			
昭53	齋木隆志 稲永俊二 山本博彦 明慶寧 藤原享			
	後藤武志			
昭54	岡定人 大江準三 大前義信 杉浦伸明			
	吉田誠治 古久根肇 村上仁志 片岡良平			
	壁井則広 片桐彰夫 白石一雄 南隆司 戸田利明			
昭55	岩崎政彦 城ノ口秀樹			
昭56	浅羽哲朗 嶋田宏 萩原秀和 石橋豊 山口初一			
	吉田直人 小林正宏 西山寿美 岩塚真之			
昭57	安藤幹人 高橋清 野口敏彦 塚本英彦 青柳昌宏			
	鈴木克彦			

電影会寄付募集のお願い

現在、電影会は名工大へ入学時に皆様からお納いただいた会費、並びに卒業された皆様からの寄金によって運営されています。

でんえい会誌の発行やホームページによるサービスを始め、電影会の運営をスムーズに行うため、今後と皆様からの寄付をお願いいたしたく存じます。よろしお願い申し上げます。

尚、寄付をいただいた方は、次号にお名前を掲載させていただきます。

一口：3,000円

郵便振込先：00860-9-19618 電影会

電影会寄付募集のお願い

現在、電影会は名工大へ入学時に皆様からお納めいただいた会費、並びに卒業された皆様からの寄付金によって運営されています。

でんえい会誌の発行やホームページによるサービスを始め、電影会の運営をスムーズに行うため、今後とも皆様からの寄付をお願いいたしたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

尚、寄付をいただいた方は、次号にお名前を掲載させていただきます。

一口：3,000円

郵便振込先：00860-9-19618 電影会

総会通知

2025 年度の同窓会行事として、電影会総会ならびに懇親会を下記のように開催することと致しました。今年度は対面にて開催させていただきます。是非ご出席下さいませようご案内申し上げます。なお、昭和 50 年 3 月の御卒業で総会に御出席の各位には、ご卒業満 50 年をお祝い致しまして、記念の品をお贈り致します。

来年度の総会への招待は、昭和 51 年 3 月ご卒業の皆様が対象となります。

日 時: 2025 年 5 月 23 日(金) 17 時 00 分～20 時 00 分

会 場: 1 号館 0112 講義室

会次第: 16 時 30 分 会場受付開始(会場前)

17 時 00 分 総会

17 時 30 分 講演会

18 時 30 分 懇親会 [参加フォームはこちら→](#)



会 費: 5,000 円(一般) 2,000 円(学生)
無料(昭和 50 年 3 月卒業生)

(当日、会場受付でいただきます。)

演題: 偽誤情報問題における人と技術の
相互作用: 理解と対策に向けて

講師: 名古屋工業大学 田中 優子 氏

2025 年 5 月 16 日(金)までに上記 QR コードから参加フォームに入ってください登録するか、office@denei.jp までご連絡をお願いします。

関東地区にお住まいの電影会の皆様

電影会関東支部では、新規会員の名簿を更新しております。[QR コードから登録画面](#)に入ってください必要事項の記入をお願いします。

先輩、後輩および他の単科会との交流の場としてイベントなどの連絡をさせていただきます。



投稿記事の募集

でんえい会誌の記事を募集いたしますので、会員の皆様からの積極的なご投稿を電影会までお願いいたします。1 ページ約 1600 字です。

編集委員 加藤昇平(E62) 矢野佑典(2010)
松井俊浩(EJh7) 菊地真人(2016)
安部功二(EJh15)

発 行 名古屋工業大学内電影会

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
松井俊浩(庶務理事)

E-mail: office@denei.jp URL: <https://www.denei.jp/>

名古屋工業大学基金寄付募集のお願い

現在、名古屋工業大学は皆様からの寄附を募集しております。詳しくは名古屋工業大学基金のウェブサイト(<https://www.nitech.ac.jp/kikin/>)をご覧ください。

名簿充実にご協力をお願いします

現在、電影会は約 16,000 人の存命会員を擁しています。その中で電影会誌をお届けできているのは半数に過ぎず、あとの半数は消息不明となっています。名簿上は消息不明の方も同級生との間で連絡可能であることが少なくありません。同級生の最新名簿をお持ちの方におかれては、是非、その名簿を電影会事務局に送って頂きたいようお願い申し上げます。まずは、ご一報ください。(meibo@denei.jp)

関西支部からのお知らせ

昨年(2024 年)は対面のみで支部総会を開催し、現役生から E39 までの幅広い年代で 20 名もの参加をいただきました。母校からは安井晋示先生(E62)にお越し頂き、高層建造物のサージ解析での最新の成果を講演頂きました。加えてソーラーカー部の現状と計画の報告があり、更なる活躍を期待し、参加者からも寄付金も行いました。

さて本年(2025 年)の総会は 7 月 12 日(土)の午後を予定しています。母校からは岩崎誠副学長(E61)にお越し頂き、昨年ご逝去された和歌山ご出身の松井信行元学長を偲びつつパワエレ関係のご講演を予定しております。場所は昨年と同様、中央電気倶楽部とし、対面のみで行います。

詳細は例年通り 6 月上旬に往復ハガキで連絡いたします。ご意見等ありましたら、以下のアドレスにお願いいたします。

kansai@denei.jp

関西支部長 川越英二(E47)

名古屋工業会総会のご案内

名古屋工業会 2024 年度定期総会及び会員総会が、**2025 年 5 月 24 日(土)**に開催されます。皆様奮ってご参加のほどよろしくお願いいたします。

訃 報

本学元学長(名誉教授) 松井 信行 様におかれましては、2024 年 7 月 10 日(水)にご逝去されましたので、お知らせいたします。
葬儀等につきましては、すでに近親者のみにて執り行われ、香典等につきましては、固くご辞退したいとのことです。